

【2020年度通常枠草の根活動支援事業】

社会的養護下にある若者に対する社会包摂システム構築事業

事業名	こころをつなぐアフターケア事業（～「あなたとともに（友）にいる」オトモダチ作戦～）
団体名	一般社団法人はこぶね
所在地	千葉県船橋市
事業の概要	<p>社会的養護下の若者には、「オトモダチ」が必要である。ただの友達ではなく、いつでも相談に乗り、信頼できる大人のトモダチ、つまり「オトモダチ」である。この「オトモダチ」が彼ら一人一人でき、施設退所後もずっと寄り添い続けて行けるよう社会包摂ネットワークシステムを構築する。</p> <p>「オトモダチ作戦」とは、施設入所中から子ども達と関係を作るためインケア活動を実施、居場所やイベントで関わる時間を増やし特定の子どもの心をつないでいく。その「大人のトモダチ」が彼らの「オトモダチ」として、退所後もかかわりを継続させていくための作戦である。</p> <p>この「オトモダチ作戦」を実行するためにはまず、各実行団体がこの作戦を熟知し、この作戦の共通理解と一致を図らなければならない。その上で、県内の児童養護施設へこの作戦への理解と協力を求めていく。さらに、各団体の持つネットワークをつなげ、彼らを信頼できる人の手から次の人の手につないでいくことで、彼らが社会からこぼれ落ちることを予防する。</p> <p>3年後には、県内の児童養護施設を退所する若者一人ひとりに信頼できる「オトモダチ」がおり、困った時に相談できる状態になる。</p>
事業期間	2021年4月1日～2024年1月31日
助成予定額	17,397,864円（直接事業費：14,734,864円／管理的経費：1,908,000円／評価関連経費：755,000円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「オトモダチ作戦」という事業の枠組み、独自性、実施内容を評価する。 ・「オトモダチ」の定義を明確化し、事業計画をよりわかりやすく、具体的なものにしてほしい。3年後には「オトモダチ作戦が機能している」（多数のオトモダチが有効に活動している）、「継続の見通しが立っている」状態を目指すために、事業計画・スケジュールを再考してほしい。 ・事業計画には、若者に届く情報発信・広報の強化（SNSの活用も含む）、オトモダチ作戦と居場所事業での相乗効果、「オトモダチ」のモチベーション維持のための工夫も具体的に取り入れてほしい。 ・自団体だけの活動に留まらず、他団体からも柔軟にノウハウを学び、地域資源を引き出し、事業を進めていくことを期待する。 ・資金管理能力・管理体制について懸念するが、伴走支援を受けながら組織体制を強化し、事業を推進してほしい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【2020 年度通常枠草の根活動支援事業】

社会的養護下にある若者に対する社会包摂システム構築事業

事業名	ちば子ども若者アフターケアネットワーク
団体名	ちば子ども若者アフターケアコンソーシアム（幹事団体：ちば子ども若者ネットワーク）
所在地	千葉県千葉市
事業の概要	<p>千葉県内に在住する社会的養育経験のある若者が支援につながりにくいことや、特定の支援者が支援を抱え込まざるをえない状況にあることを解消するために、千葉県内の児童福祉施設や中核地域生活支援センターと連携しながら千葉県内のアフターケア標準化のためのネットワーク構築を目指す事業。</p> <p>①若者達のニーズや支援につながらない要因を把握するための調査研究 ②若者達に支援情報を届けると共に若者達の声を社会に届けるウェブサイト運営 ③アフターケアに携わる支援者間の連携体制を構築するためのネットワーク事業 ④若者達が制度枠組にしばられることなく気軽に立ち寄ることができ、問題が深刻化する前に支援につながれるようにするとともに支援者達や市民との対話、共創の拠点となる居場所事業（緊急対応としての短期シェルター機能ややり直しのためのステップハウス機能も予定）</p> <p>上記取組を支援者と若者との協働の中で実施していくことで、若者と支援者とのギャップや支援者の抱え込みを解消し、やがて千葉県内のどこでも標準的にアフターケアが受けられる地域社会を目指していく。</p>
事業期間	2021年4月1日～2024年1月31日
助成予定額	20,447,000円（直接事業費：16,672,000円／管理的経費：2,875,000円／評価関連経費：900,000円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・課題分析を丁寧にされており、当事者である若者が参画する事業である点、児童養護施設や中核地域支援センターとのコンソーシアムにより事業を実施する点、出口戦略が明確になっている点を評価する。 ・本事業のインフラ部分を担う事業として、その波及効果に期待し、政策提言による既存制度の改革・拡充とモデル事業になっていくことを期待する。 ・居場所については、本事業を象徴する場として、助成期間中限定でもよいので人が集まるアクセスしやすい場所に設置し、若者のみならず支援者や行政、メディア等への積極的発信を続け、本事業の必要性をアピールする役割も担ってほしい。 ・当事者への働きかけ、広報のためのWEBサイト作成については、事業実施しながら若者が利用しやすい情報を常に更新し、積み重ねていくようなサイトを期待する。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【2020 年度通常枠草の根活動支援事業】

社会的養護下にある若者に対する社会包摂システム構築事業

事業名	大人の TERAKOYA (まなぶ!つどう!つなぐ!ぼくらはアシタに歩いていく)
団体名	株式会社ベストサポート
所在地	千葉県千葉市
事業の概要	<p>支援対象者には、心を寄せる場所とつながりが大切だ。これらをベースに社会で生きていく上で必要なスキルの習得を目指す。そのスキルは専門性が高く、習得することで自分に自信が生まれ、挑戦意欲が増し、「社会で生きていく」ためから、「豊かな人生を歩む」ための好循環を作り出す。また、彼らを支えることで、人手不足であえぐ業界を支え、地域経済の活性化につながる。</p> <p>1.社会的養護等により何らかの困りごとを抱えている若者に、スキルの習得と安心安全の為の居場所の提供をする。 2.社会的養護下の若者を支援し、社会で活躍する人材に育成し、世に排出し、人手不足等で困っている業界を活性化する。また、社会貢献活動に携わりたいと考えている企業と福祉をつなぐ。</p>
事業期間	2021 年 4 月 1 日～2024 年 1 月 31 日
助成予定額	20,890,000 円 (直接事業費：17,200,000 円／管理的経費：2,800,000 円／評価関連経費：890,000 円)
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のアウトリーチからアフターケア、ベースを介して繋がった当事者ごとに個別に対応・支援し、就業後もフォローしていくという一連のシステムがビジネスモデルとなり、事業終了後は自走していくという点を評価する。 ・事業内容に当事者性が低く、若者を見つける、繋がるといったアウトリーチの事業計画には脆弱性がみられるため、他団体のノウハウやネットワークを積極的に取り入れ、情報発信・広報についても強化し事業を実施していくことを期待する。 ・講座は若者にとって意味のある内容となるように、ニーズの分析、内容の精査を行った上での実施と、就業支援についてもニーズや個性に合わせたマッチング及び就労後のフォローを事業内容に盛り込んでほしい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【2020年度通常粋草の根活動支援事業】

社会的養護下にある若者に対する社会包摂システム構築事業

事業名	社会へ「いっぽ」を踏み出す基盤づく（セルフマネジメント（正しくSOSを出せる力をつける）
団体名	一般社団法人いっぽの会
所在地	千葉県松戸市
事業の概要	<p>社会的養護下にある若者が社会で自立するために、①住居環境（シェアハウス等住まいの確保、生活力向上、メンタルケア等）②働く（職場開拓、就労支援プログラム、資格取得、フォロー等）これらをトータルに支援できる相談体制・コーディネート機能が必要である。民生委員等と繋がり、情報の共有・地域ボランティアとの協働で生活の体験・社会参加の体験を実施する。生活の体験としては、家事を地域のボランティアとの協働にて、家庭的な支援の中、精神面・生活習慣を整える。心身の安定が社会参加への意欲の芽生えの一因となる。社会参加の体験として、地域のボランティア活動や支援企業の助けにより、短期雇用に挑戦し社会への不安や経験不足、仕事が続かない等の不安を取り除く。人々との関わりにより、成功体験を重ねることが自己肯定感を高め、社会の一員であることを知る。地域から孤立した家庭がある中、現状、沢山の人の可愛がられ、色々な関係性や価値観に触れる機会や経験の少なさを、地域が関わり育てる社会としていく。そのためには、若者との関わりが大人達の理解を深め必要性を知る機会となる。</p>
事業期間	2021年4月1日～2024年1月31日
助成予定額	20,985,000円（直接事業費：20,000,000円／管理的経費：0円／評価関連経費：985,000円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模でありながら生活の場と社会生活経験の場、就労支援とチャレンジできる機会と場の提供を行うという地域に根付いた仕組みづくりの事業提案が、東葛地域でのモデルとなり、成果を他地域に展開してほしい。 ・支援を必要とする若者をどう発見し、必要な情報をどう届けるのか、対象エリア外の若者も含め、情報発信・アプローチ方法について他団体からノウハウを学び、協力しながら強化することを期待する。 ・社会生活の基盤となる就労支援に注力される点を評価する。単なるマッチングに留まらず、若者と受入れ企業の両方のフォロー（アフターケア）を行っていたき、持続的な就労支援の面でもモデルケースとなるよう期待する。 ・外部メンバーが確実に連携していくことで事業が推進されていくことを前提に、組織基盤並びに事業推進体制の強化を図り、事業の成果を生み出すことを期待する。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。